

実践 10		総合的な探究の時間		1学年
科目の目標 (3)		探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。		
単元名		「産業体験を通し、地域に目を向けよう！」		
単元の目標 (3)		産業体験プログラムを通して、地域や社会に目を向け、特産品や魅力を生かす方法について考え、地域社会に貢献しようとする態度を養う。		
単元の 評価 基準	観点	生徒の姿	主な評価方法・材料	
	【知】	地域や社会の人、もの、ことに関わる探究の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域や社会の特徴やよさに気づき、それらが人々の関わりや協働によって支えられていることに気付いている。	ワークシート	
	【思】	地域や社会の人、もの、ことと自分自身との関わりから問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に分析したりする力を身に付けるとともに、論理的にまとめ・表現する力を身に付けている。	ワークシート 発表	
	【態】	地域や社会の人、もの、ことについての探究活動に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するために行動し、社会に貢献しようとしている。	「未来課題」 ワークシート 発表	
「学びに向かう力」育成に向けた本単元における「未来課題」				
「未来課題」		あなたは北中城村役場の職員(企画振興課の地域振興係)です。産業技術教育センターを「さんぎ村」という架空の村として設定し、「さんぎ村」の企業が行っている地域特性(魅力・特産品)を生かす取り組みについて視察・体験学習し、北中城村の特性・魅力に気付くきっかけづくりをしよう！		
本質的な問い		地域の特産品や魅力を生かすにはどうすればよいか？		
6 要素	①目的	「さんぎ村」の地域特性(魅力・特産品)を生かす取り組みについて学ぶ		
	②役割	北中城村役場の職員(企画振興課の地域振興係)		
	③相手	すべての消費者		
	④状況	北中城村の特産品や魅力を生かした商品やサービスを考える。		
	⑤作品	北中城村の特産品や魅力を生かした商品やサービス		
	⑥評価	【態】を評価基準で評価		

【指導と評価の計画】

時間	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
2 (事前)	・「未来課題」について説明し、体験学習に向けて主体的に取り組むための動機付けを行う。 ・体験学習のグループ分けを行う。	○			・ワークシート
3 (体験)	・役場の職員として、「さんぎ村」での体験学習を通して、地域の特性・魅力に気付くきっかけをつくる。	○		○	・未来課題 ・ワークシート
12 (事後)	・グループで地域の特性・魅力について調べ、探究テーマを決定する。 ・学級で中間発表することで多様な意見を聞き、研究の価値を高めていく。 ・学年の生徒及び地域の方に調査研究の成果を発表する。		○	○	・ワークシート ・中間発表 ・最終発表

【授業の実際】

1. 体験活動の流れ

下図は体験学習の活動スケジュールである。産業技術教育センターを「さんぎ村」という架空の村として設定し、そこにある6つの研究室を企業と見立てて体験実習を行う。太線枠で示すように活動は大きく3つある。はじめに、全体でオリエンテーションを行い目的や方法、体験の流れを確認する。次に、前時までに決めた企業ごとに分かれて体験活動を行い、各企業のまとめを行う。最後に全体のまとめとして、各企業の体験活動の共有、ワークシートの記入、振り返りを行う。

時間(分)	(5)	(20)	(5)	(90)	(20)	(5)	(30)
全体の流れ	オリエンテーション (全員：情報応用室)	移動		体 験 活 動	各企業のまとめ	移動	まとめ (全員：情報応用室)
農業		オリエンテーション		希少な植物 ランの鉢植え	報告書のまとめ		まとめ
		(村長) 歓迎のあいさつ		酸乳飲料 (シークワーサー風味・カープチー風味)	① 会社について		(報告) 体験活動の共有
工業		(目的) 何を学ぶ		工作機械で加工したネームプレート作成	② 体験報告書作成		(感想・考え) ワークシート記入
		(方法) どのように学ぶ		各地のマンホールキーホルダー	③ 発表シナリオ作成		(振り返り) 全体のまとめ
		(説明) 体験の流れ		観光ツアーのプランニング	発表者決め		アンケート
商業(サービス)		(紹介) 各企業の社長		ドローンキャッチャー体験(プログラミング制御)			
		移動					

2. 活動の様子

オリエンテーション(全体)

「さんぎ村」の村長からの歓迎の挨拶から始まり、「さんぎ村」での体験学習を通して、何を学ぶか・どのように学ぶかといった、目的や方法について確認した。その後、体験の流れや各企業の社長紹介を行った。

《 目的 》何を学ぶ？

「体験学習」を通して

①さんぎ村の地域特性(魅力・特産品)を生かす取り組みについて学ぶ

②北中城村の特性・魅力に気付くきっかけづくりとする

《 方法 》どのように学ぶ？

① 役割：北中城村役場の職員企画振興課・地域振興係

② 6つの企業(班)にわかれる

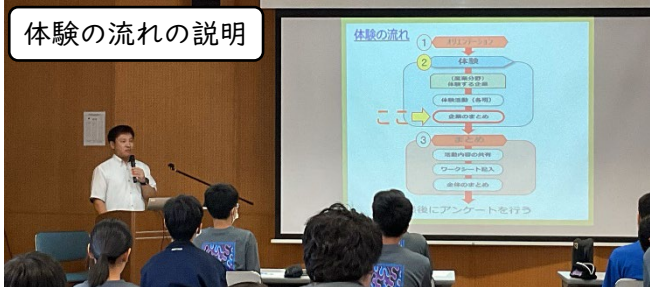
産業	企業名	企業名
農業	つばめファーム：栽培	Uetouフーズ：食品加工
工業	K's製作所：金属加工	SOKYU HANDS：アクリル加工
商業(サービス)	夢プランニング：観光体験	GMカンパニー：アミューズメント

③それぞれの企業が行っている地域の特性(特産品・魅力)を生かす方法を体験する



村長の歓迎の挨拶

体験の流れの説明



各企業の社長紹介

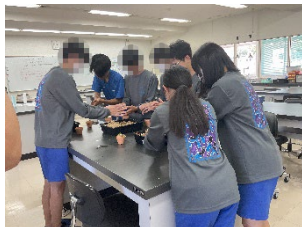


体験活動

〔農業分野〕

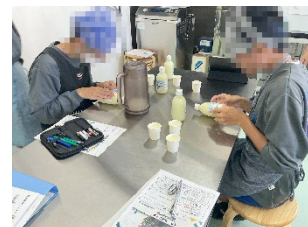
つばめファーム(栽培)

耕作放棄地を有効活用して栽培した、「さんぎ村」の地域特産である希少な植物ランの鉢植え体験。



Uetou フーズ(食品加工)

「さんぎ村」の農家が作ったシークワサーやカーブチーを使った酸乳飲料の製造体験。



〔工業分野〕

K's製作所(金属加工)

CAD で図面を作成し、工作機械で加工した金属製のオリジナルネームプレート製作体験。



SOKYU HANDS(アクリル加工)

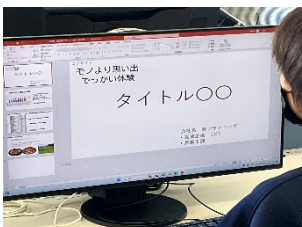
地域産業の商品に付加価値(ロゴマーク等)をつけるオリジナルキーホルダー製作体験。



〔商業・サービス分野〕

夢プランニング(観光体験)

「さんぎ村」の地域の特性や魅力を生かした観光体験ツアーの商品開発体験。



GM カンパニー(アミューズメント)

ドローンを使って「さんぎ村」の特産品をゲットするゲーム感覚のプログラミング体験。



各企業のまとめ

各企業で体験活動のまとめを行い、ワークシートの視察・体験報告書を記入し、発表シナリオを作成。

ワークシート

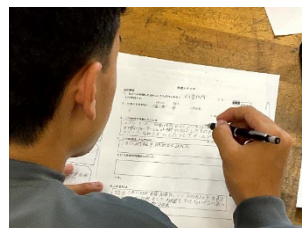
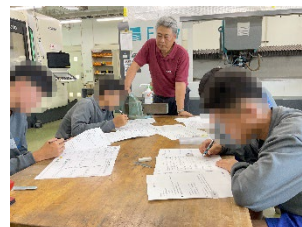
私が視察・体験する会社	
会社名	業 種
社 名	所在地
《視察・体験報告書》が分かったか?	
この会社で体験したこと	
この会社の役割	
この会社の地域の特性や魅力の気づき	
この会社について感じたこと(視察や体験の場から得た気づき)	
さんぎ村の発展のつながり	
班で協力し『発表シナリオ』を仕上げよう	

発表シナリオ

ワークシートをもとに

発表シナリオ	
会社概要	発表の場
1. 視察・体験した会社は、さんぎ村にある() 会社です。	発表の場
2. 社名の由来は() さんで、() 会社です。	発表の場
3. この会社で体験したこと	発表の場
4. この会社は、さんぎ村の() 会社です。	発表の場
5. この会社は() 会社です。	発表の場
6. さんぎ村の発展とのつながり	発表の場

発表で紹介できるよう
ポイントを絞って
写真・動画の撮影を心がける



まとめ(全体)

各企業での視察・体験活動の発表をし、ワークシートへの記入、感想・振り返りを行った。振り返りでは「未来課題」を再確認し、事後学習へつながるようにまとめを行った。最後にアンケートも行った。




《他町の視察・体験報告のまとめ》
聴く視点：地域特性・魅力をどのように生かしているか

つばめファーム：栽培

Uetouフーズ：食品加工

K's製作所：金属加工

SOKYU HANDS：アクリル加工

夢プランニング：観光体験

GMカンパニー：アクリル加工

さんぎ村の感想

体験活動や他町の視察・体験報告を聞いて、自分なりに体験学習をまとめて感想を書いてみよう

振り返り

北中城村には
どんな自然があって、
どんな文化があって、
どんな産業があるのか。
今あるものに
付加価値をつけ、
今ないものを
創造するために
私たちは・・・

【質問1】さんぎ村の地域特性（魅力・特産品）を生かす取り組みについて

①学べた ②やや学べた ③あまり学べなかった ④学べなかった

(1) 質問1で学べた、②や③や④と答えたら人に聞きます。学べなかった場合は記入してください。

(2) 質問1で学べた、②や③や④と答えたら人に聞きます。学べなかった場合は記入してください。

【質問2】北中城村の特性・魅力に気づききっかけになりましたか？

①はい ②いいえ

【質問3】自分が住んでいる地域について興味がありましたか？

①はい ②いいえ




「未来課題」の実際

架空の村「さんぎ村」の各企業が、産業や地域資源を活用し、地域の特性や魅力を生かす活動を行った。例えば、地域の生産物を活用して新しい商品をつくる会社や地域産業の商品に付加価値をつけたりする会社、地域の魅力を生かした商品開発を行う会社等、地域の活性化につながる内容を取り入れた。またワークシートには、体験した企業の地域特性(魅力・特産品)を生かす取り組みについて記入できるようにした。ワークシートを書き進めることで、発表シナリオが作られるような構成にし、各企業の体験報告で活用した。最後の振り返りでは、各企業で学んだ地域特性・魅力の生かし方について共有を図った。活動内容を共有することで「北中城村の地域特性・魅力の生かし方について、北中城村役場の職員の立場としてどのように取り組んでいくか」という学校での事後学習につなげた。体験した生徒aのワークシートの記述(感想)を紹介する。

今回「さんぎ村」に来て、私は工業分野を体験したけど、他の班(企業)の発表を聞いて気づいたことは、それぞれの班が独自のやり方で地域に貢献して、みんなで支えあっているんだろうなと思いました。私も大人になったら自分なりのやり方で何かに貢献したいと思います。

上記の記述より、体験活動を通して、「さんぎ村」の企業の地域貢献について学び、将来自らも地域に貢献しようとしており、評価規準に示す資質・能力が育成されていると考えることができる。

【実践の効果】

本実践は、学びに向かう力を育むために「北中城村役場の職員(企画振興課の地域振興係)」という役割を設定し「未来課題」に取り組んだ。その効果について生徒への事後アンケートから考察する。[n=38]

Q1:「さんぎ村」の地域の特性(魅力・特産品)を生かす取り組みについて学べたか? ⇒ 肯定的回答 100%

理由

- [生徒 b] 地域を支える産業がどんな風に支えているのか体験して、深く考えることができたから。
- [生徒 c] 「さんぎ村」にある会社は、色々な会社がつながりあい、地域の特性・魅力を生かしていたから。
- [生徒 d] 色々な企業が工夫をして、村を活性化していたかを見学して、学ぶことができたから。

Q2:北中城村の特性・魅力に気付くきっかけになりましたか? ⇒ 肯定的回答 95%

Q3:自分が住んでいる地域について興味がありましたか? ⇒ 肯定的回答 100%

全ての質問項目で肯定的な回答を得ることができた。特に Q1 の理由においては、「さんぎ村」の地域特性の生かす取り組みについて、体験学習を通して深く考えるきっかけになった等の記述が見られた。以上より、「学びに向かう力」育成に向けた「未来課題」の本実践は有効であったと捉える。